

鐵 と 鋼

第五年 第二號

大正八年二月二十五日發行

製鐵事業と保護關稅との關係

今 泉 嘉 一 郎

抑も保護關稅政策なるものか、四隣競争の裡に立てる其國の比較的幼稚なる工業を振興せしむるために必要なる手段なりとせば、製鐵事業の如き國家の軍備經濟、及文明の消長に最も重大なる關係を有する工業に對して此政策を應用するは、蓋し最も其當を得たるものと云ふ可し、唯此政策を製鐵事業に向て實行したる場合に於て、其事業か果して能く豫期の發達を遂ぐるや否は、過去の經驗に徴するの外なし、然るに世界の製鐵國は、何れも此政策を應用せざるもの無く、殊に事業尙幼稚なる時代に於て、最も然るか故に、吾人は此等先進國の實際の歴史に就て、最も有益なる教訓を見出すことを得へし、人若し此意味に於て各國實踐の跡を尋ねんか、此政策か其國製鐵事業の開發者たり、扶導者たるに於て皆其軌を、一にすることを了解すへし。

凡そ一國工業の盛衰は其國の原料、技術、資本、政策の優劣に依りて、定まるものにして、殊に製鐵事業の如き性質のものにありては、最も痛切に此四要素に依て、支配せらるゝこと元より當然なりとす、而して我國今日の國勢を以てすれば、技術及資本の如き必ずしも、多く憂ふるを要せずと雖も、原料及政策の二點に就ては、頗る研究を要すへきものあり、管原料の問題は主として、其國の天惠如何に依て定まるものにして、人為の左右し得可き範圍、自ら限りありとすれば、吾人か、目下最も努力すへき餘地あるもの、實に政策の一點にありとす。

米、獨、英、三國は近世の最大製鐵國なり、今漫然彼製鐵事業近世の成績を見んか、其盛況人を驚かすに足ると雖も、彼等か特に有せる天惠の要素、即石炭及鐵鑛の如き製鐵原料を、別とせば吾人か企て、及はざるを、憂ふへき點果して何物なりや、吾人か彼等に就て學ぶへき點、決して少しとせず、然れとも最も多く、學はんとするは彼等の今日を成したる、彼等過去の歴史なるへし。

此理由に依り、予は今茲に此等各國の製鐵事業か近世の大を成したる以前にて如何にて如何に、一 稅政策を務めたるか、而して其 果の如何なりしかを左に研究せんとす。

米 國

米國は古來専ら歐洲諸國より、其需用鐵類の供給を受け、就中英國産鐵の最好市場たりしを以て、米國の製鐵事業は常に其壓迫を受け、永く擡頭するの機を得ざりし、蓋し過去幾世紀に亘り最も進歩したる、製鐵技術を有し剩へ其豊富なる、天然の原料と其獨占的なる海運業とを擁したる英國の製鐵事業は當時實に隆々たるものにして、其製産額は英國以外の世界全産額を以てするも、尙之に優るの勢ありしに對し米國は、十九世紀の始めに於て尙僅に年額數萬噸に過ぎざる有様なりしか故に、此狂瀾を挽回すること元より容易ならざるものありしを察するに足る。

然るに十九世紀の初に至り、米國は遂に憤起せり、當時北米合衆國は、小なりと雖も已に五百三十萬人の國民を算するに至り、且一千八百二年に於て新に、ヲハイヲ州を併合して、茲に十七聯邦の合衆國となり、漸く國勢隆興の機運に向たるに當り、歐洲に於けるナポレオンの大戦は、遂に歐大陸の鎖國となり、米國の對外貿易は非常なる影響を被りたり、殊に米國は單に佛國の爲に敵視せられたるのみならず、其國勢の振興は漸く英國の猜疑する所となり、千八百六年に至りては、英國の嫉妬心は遂に増長して露骨となり、強暴なる壓迫政策を發現するに至れり、之に對し米國は初め英國品拒絶を以て、之に對抗したるも遂に千八百十二年六月十八日を以て、英國に向ひ戦を宣するの止むなきに至り、千八百

十四年十二月二十四日平和條約締結せらるゝ迄其戰を繼續せり、是等時局間の實驗に依り米國人は茲に自家用品の自給自足を以て、國是とするの止むなきを自覺し、乃ち憤然として強力なる、自國産業保護政策を斷行するに至り、其結果として漸く各種産業の非常なる隆興を促したるか、就中最も著名なる發達をなしたるは製鐵事業なりき、即ち千八百十五年より戰費償却の名義を以て、輸入關稅の改正を行ひ外國の鐵類に對し、漸次高稅を課することとなり、同年四月十五日より、銑鐵一噸に付一弗、鐵鑄物一噸に付一、五弗、壓延材及鍛製品一弗、釘其他は一〇、%從價稅となし、千八百十八年更に稅率を高めて、凡て二〇、%從價稅となし、千八百二十四年及千八百二十八年、更に之を高めて全部二五、%從價稅となしたり、其結果千八百三十年には、銑鐵一噸に付一二、弗となり、鍛鐵二二、四弗、壓延鐵材三七弗となり、當時英國の輸入稅銑鐵二、二二弗、壓延鐵材六、六六弗なりしに比して非常なる高稅たりしなり、此獎勵は寧ろ必要以上なりしに依り、鐵業の勃興頗る顯著なりし。

前述の如く米國は斷乎として、優勢なる英國の壓迫に對抗したるを以て、其製鐵事業はペンシルバニア州を初め、各州に於て急速なる勃興を來し、遂に他日の基礎を造れり。

此の如き斷乎たる政策は、一時亦多少の障害あるを免れず、英國に於ける機械業者、獨逸に於ける自由貿易論者、日本に於ける造船業者か、曾て一時的一部の利害を云云して此の種の政策に、反對したることありしか如く、米國に於ても、亦此政策は農業者の不滿を惹起したり、即農業を主とする南部各聯邦は、サウス、カロライナ州を盟主として、此政策に向て反對運動を開始し、殊にサウス、カロライナ州の如きは自州に對し、現關稅の無效たる可きを宣言し、合衆國聯邦脫退を以て強迫するに至れり。

此運動に震駭したる政府は、千八百三十二年再び輸入稅の復舊緩和を實行したり、之かため漸く防遏の功を奏せんとしたる外鐵輸入は再び急激に増加し來り、千八百三十六年及七年の如きは價格二千四百萬弗の外鐵輸入を來し、殆んど當時の米國自家産額の全量に比肩するに至れり。

此結果は單に米國の製鐵事業のみならず、其一般の經濟界に對して非常なる損害を發生し、千八百三十七年に於ては殆んど、米國各工業の全滅を見んとするか如き、重大なる恐慌を惹起せり。

此結果に驚きたる政府は、再ひ有力なる關稅保護の必要を感じ、千八百四十一年より之を施行せり、其功果は千八百四十三年より、漸く現出し、産額の激増を見、爾來六年間異常の進歩をなし、千八百四十八年の如き銑鐵製造高八十萬噸に達し、當時世界製鐵國の第二位を占むるに至れり、英國の同年に於ける銑鐵製造高約二百萬噸、各種鐵製品中レールの如きは、土地廣漠たる米國に於て最も必要なる鐵材なりしも、此新關稅の實施を見たる千八百四十一年九月十一日迄は凡て無稅なりしを以て、盡く英國より輸入せられしか、新稅の發布と共に漸く資本家の注意を促し、レール製造を企畫するものあるに至れり、然れども千八百四十四年迄は未だ實際の製造を見ず、同年迄米國に於て布設せられたる、四千八百八十五哩の鐵道は、全部英國のレールに依て造らる、同年の如きも八千三百噸のレールを、英國に注文するの有様なりしか、同年マリーランドに於ける、マウントサベージ製鐵所か、初めてレールの製造を創め、フランクリン、インスタチュートより銀牌を受領し、之れに繼て續々レール製造工場、勃興を見るに至れり、然るに千八百四十六年レールに關して、不利益なる關稅案の實現するに及んで、一打撃を受け、千八百五十年の如き全國の十五個レール工場中僅かに二箇所を除き、他は全部閉場するの已むなきに至れり、何故に米國政府か折角勃興せるレール製造業に對して、不利益なる關稅改正を行ひたるかは、明かならざれども、察する所需用急進の爲め、一時已むことを得ず、輸入を誘致せるものならんか、即ち千八百四十九年には、米國の鐵道延長六千四百四十哩に達し、英國の鐵道總延長を凌駕すること四百四十四哩なるの盛況なるに當り、米國のレール製造量は事業尙幼稚なるため、千八百四十九年は、二萬四千三百十八噸、千八百五十年は四萬四千八十三噸に過ぎずして、千八百五十年の輸入レールか十六萬噸に達するを見れば、此の如く想像するの外なし、而して千八百六十一年の關稅改正は

遂に此姑息政策を訂正するに至れり、因に云ふ千八百六十年の米國鐵道總延長は、四萬九千二百九十一キロメートルにして、同年に於ける歐洲全體の鐵道總合計五萬一千キロメートルと伯仲するに至れり。

米國に於けるレールの自製及輸入比較表

西曆	自製	輸入
一八五〇	四〇、〇〇〇噸	一六〇、〇〇〇噸
一八五五	八〇、〇〇〇	三四〇、〇〇〇
一八六〇	二〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
一八七〇	六二〇、〇〇〇	三九九、〇〇〇
一八八〇	一、三二六、〇〇〇	二六〇、〇〇〇
一八八六	一、六〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
一八九八	二、〇一三、〇〇〇	(一八八九年以來輸入全滅)

以上は米國に於ける製鐵事業の幼稚時代より、少壯時代に達する迄を叙したるものにして、之を以て見るも米國か、此時代に於て、憤然として自覺し、外は優勢なる先進國に向て、戰爭を敢てし、内は聯邦の結合を危くする迄も、一に關稅保護政策を遂行して、國家重要な工業を扶導したるを見る可し、蓋し此の如く爲さざれば、到底強力なる先進國の壓迫に對抗し、自國工業を速進するの望なきに因る。

此の如くして、米國は年間銑鐵製造額五萬噸に過ぎざる幼稚時代より、僅に三十八年の年月を以て、年額八十萬噸の少壯時代に達し、歐洲先進國か百年を費やすも、尙爲し能はざる急速の進行をなし、茲に英國を除き、悉く他の先進國を凌駕するに至れり。

然るに米國の工業保護政策は、此の時代に及ぶも、尙變改せらるゝ事なく、益強硬なるを見る、即ち千八

百四十九年より始まりたる、一般商業恐慌の波動を受け、製鐵事業も亦沈衰し約十ヶ年に亙り、毫も進歩を見ず、其機に乗じて外品の侵入漸く増加したるか、千八百六十一年内亂の勃發するに至るや、一は戰費徴收のため、一は外品防遏のため、茲にモリル法案の實施と共に、千八百六十一年三月十二日より、又もや有效なる保護關稅を課することゝなれり、之か爲め千八百六十一年にありて、年額七十三萬噸なりし銑鐵製造量は、内亂中なりしに拘らず、千八百六十四年に於ては百十三萬噸に達せり、此年内亂の鎮定するや、保護關稅撤廢の議ありしも、製鐵業者殊に、ペンシルバニア州は之を以て、再ひ米國製鐵事業の衰滅を、來すへき基なりとして抗議し、其儘從來の有效なる保護關稅を存續するのみならず、一層強力なる製鐵事業保護政策を執ることゝなり、千八百六十五年より其目的を以て、一層重率なる輸入稅を課するに至れり。

爾來年を歷ること五年、即千八百七十年に及んで銑鐵年産額は遂に百八十六萬噸に達し、米國製鐵事業の將來に就て、多く恐るゝ所なきに至れるも、保護稅は依然として繼續せられたり。

爾來十年を經過して千八百八十年に至れば、米國は既に退守のみを主とするものにあらずして、其鐵材の海外輸出額一千五百萬弗に達したるも、而も尙同時に八千萬弗の外鐵輸入あるを遺憾としたるか、千八百九十年に及んでマツキンレーの保護關稅案出現し、内地工業を保護するため一層の關稅増加を實行することゝなり、製鐵事業は更に一段の恩澤を蒙りたるか、就中鋳力板(チンプレート)の如きは著しき獎勵を受くるに至れり、即是迄鋳力板の輸入稅は一封度に付、一仙なりしを二、二仙に改めたり、從來鋳力板は英國獨得の製造品にして、而も其製産額の五分の四は米國に輸出せられたるものなるか、マツキンレーの關稅改正に依り米國內に鋳力板製造企業を誘起し、直に二十箇所の工場新設を見るに至れり、之かため英國よりの輸入は減したるも、而も尙千八百九十年に於ては、英國製産額の四分の三を米國に供給せしめたり、無二の好市場唯一の顧客たる米國か此の如く自覺したるを見て、

英國の製造家は是非此防柵を突破せんとし、一層廉價に鋳力板の供給をなすことを努めたるか、一方米國に於ても鋳力板の製造業は不幸にして、此増税に關せず、當初豫想したる如き急速なる進歩を爲さず、尙ほ一方に於ては一般の鋳力板需用量か、益増進したるを見て政府の政策は少しく動搖を來し、マツキンレー法案に對して條件を付することゝなれり、即ち爾來五ヶ年間に於て内地鋳力板製造量か、需用量の三分一に達せされは此高税率を繼續せしめさることゝなせり、然るに其後の情況は五ヶ年間に需用量の三分一を自製すへき見込覺束なかりしを、て、需用者側の運動に依り、新に一法律を通過するに至れり、之に依れば千八百九十二年十月一日より、以前の如く鋳力板一封度に付、一仙の輸入税となし、千八百九十四年十月一日より輸入税全廢たるへきことゝなれり、蓋し鋳力板の製造は技術上習練を要すること多き爲め、充分の保護關稅ありと雖も、豫想の如く急速の進歩をなし難かりしならん、此法律の結果、折角勃興せし工場にして、閉鎖せしものを生したるか、而も千八百九十三年に於ては米國の製造量、四萬九千九百六十噸にして、英國よりの輸入高二十四萬一千五百四十三噸に對し尙小なりと雖も、既に一個の事業たるに至れり、幸に需要者側の反對に依て、議決せられたる前掲の法律は、遂に實行するに至らざりしも、千八百九十四年八月二十八日より、一封度二、二仙の關稅は一、二仙に遞減することゝなりたり、然れとも、今や既に相當の習練を積みたる、鋳力板製造業は既に充分に此減税に堪へ、事業益隆興し、千八百九十五年には十萬二千六十二噸、千八百九十七年には、二十六萬七百一十一噸を製産し、同年に於ける英國よりの輸入額二十三萬七十四噸を凌駕したるのみならず、年を歴るに従ひ遂に鋳力板の輸出國となれり。

鋳力板の如き新工業の消長は、此の如くなりしか、從來既に充分に成熟せる一般の製鐵業は、此マツキンレーの製鐵保護政策に依りて一層の活況を呈し、當年即千八百九十年に於ては、銑鐵の産額九百三十四萬九千噸にして、英國の八百三萬噸を超過すること百三十萬噸となり、此年を以て古來百年間

世界の一位を占め、而も千八百五十年頃迄他の聯合を以てするも、尙及はさりし英國を凌駕し、始めて世界製鐵國の第一位を占むることゝなれり。

之に加ふるに千八百九十七年ディングレー法案に依て、製鐵事業は更に關稅保護を受くることゝなりたる爲め、今や米國は單に鐵に於て、獨立自給の目的を完成したるのみならず、前掲の如く千八百八十年にありては、尙鐵輸入國の觀ありしに反し、千八百九十八年には、鐵製品機械共輸入高一千二百萬弗なるに對し、七千八百萬弗の輸出をなし、千八百九十九年には、輸入同しく一千二百萬弗なるに對し、輸出一億六百萬弗となり、遂に堂々たる鐵輸出國たるに至れり。

此の如くして、根底既に成りたる米國の製鐵業は、其豊富なる天然原料、旺盛なる國民の企業心と、巧妙なる學術應用、無限なる自家需用等に依り、今後唯益隆盛を豫想すへきのみ、世上亦恐るゝに足るものなきか故に、其關稅は最早多く保護の意味を有せずと雖も、其事業は益發達して千九百十五年銑鐵産出額三千萬噸となり、歐洲戰爭の結果更に激増して千九百十七年には、一躍四千萬噸に達するに至れり。

米國銑鐵製造量 (市場價格當初は木銑なり)

西曆	製造量	市場價格	製造量	市場價格
一八一〇	五三,九〇八	三六,〇〇 <small>弗</small>	西曆 一八三三	二一八,〇〇 <small>噸</small>
一八二八	一三三,四〇四	三六,〇〇 <small>弗</small>	一八三四	三三六,〇〇〇
一八二九	一三四,九五四	一八三五	一八三五	三五四,〇〇〇
一八三〇	一六五,〇〇〇	三五,〇〇	一八三六	二七二,〇〇〇
一八三二	一九一,〇〇〇	三五,〇〇	一八三七	二九〇,〇〇〇
一八三三	二一〇,〇〇〇	三五,〇〇	一八三八	三〇八,〇〇〇

關稅政策反對アリテ緩和セラル

保護關稅政策ヲ始ム

輸入激増

一八三九	三三六,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一八五九	八四〇,六二七
一八四〇	三四七,〇〇〇	三三,七五	一八六〇	九一九,七七〇
一八四一	二九〇,〇〇〇	二八,五〇	一八六一	七三一,五五四
一八四二	二三〇,〇〇〇	二八,〇〇	一八六二	七八七,六六二
一八四三	三二二,〇〇〇	二六,七五	一八六三	九四七,六〇四
一八四四	三九四,〇〇〇	二八,三五	一八六四	一,二三五,九九六
一八四五	四八六,〇〇〇	二九,三五	一八六五	九三一,五八二
一八四六	七六五,〇〇〇	二七,八八	一八六六	一,三五〇,三五三
一八四七	八〇〇,〇〇〇	三〇,三五	一八六七	一,四六一,六四六
一八四八	八〇〇,〇〇〇	二六,〇〇	一八六八	一,六〇三,〇〇〇
一八四九	六五〇,〇〇〇		一八六九	一,九一六,六四一
一八五〇	六五三,〇〇〇		一八七〇	一,八四五,〇〇〇
一八五一	四六二,五六〇	二九,〇〇	一八七一	一,七三三,八二八
一八五二	六〇六,六五〇	二五,〇〇	一八七二	二,五八九,〇八四
一八五三	八一〇,〇〇〇		一八七三	二,六〇一,五三八
一八五四	七五六,二一八	二二,〇〇	一八七四	二,四三九,二九八
一八五五	七八四,一七八	二〇,〇〇	一八七五	二,〇五五,七八九
一八五六	八八三,一三七		一八七六	一,八九八,五六五
一八五七	七九八,一五七		一八七七	二,〇九九,三三八
一八五八	七〇五,〇九四		一八七八	二,三三七,六六六

關稅增加ヲ實行シテ保護ヲ計ル

内亂勃發モリリル
保護關稅案實施

此年より關稅一層增加せらる

世界第二製鐵國トナル商業恐慌始
マル製造過多モ亦一因ナリ

一八七九	二、七八五、二八四	一八九〇	九、三四九、九四六	世界第一位の製鐵國となる
一八八〇	三、八九五、九四〇	一八九一	八、四二二、三四八	
一八八一	四、三〇九、八九八	一八九二	九、三〇三、五二一	マツキンレー保護關稅案實施
一八八二	四、六九六、五五七	一八九三	七、三三八、四九四	
一八八三	四、六六八、三〇二	一八九四	六、七六三、九〇六	
一八八四	四、一六二、七七九	一八九五	九、五九七、四九九	
一八八五	四、一〇八、五九一	一八九六	八、七六一、〇九七	
一八八六	五、七七四、五八七	一八九七	九、八〇七、一三三	ディングレー保護關稅案實施
一八八七	六、五二八、七九五	一八九八	二、九六二、三二六	
一八八八	六、四九一、〇〇〇	一八九九	一三、八三八、六三四	
一八八九	七、七三四、三八一	一九〇〇	一四、〇〇九、六二四	
		一九〇一	一六、一三三、四〇八	

(參照)……今米國に於ける製鐵事業の製造原價、市場價格及保護關稅の割合を調査するに其幼稚時代は參考とするに足らざるに依り之を除き、已に少壯時代に入りたる千八百五十年以來の情況を考ふれば大略下の如し。

米國製造費

英國市價(スコットランド大相場)

西曆	一八五〇	一八五一	一八五二	一八五三	一八五四
佛	一四九六	一三九六	一五〇六	一五六三	一六八〇
片	二四四	二一八	二五三	三一三	三一九七

千八百六十年に於ては東部諸州ニューヨーク、ニューゼルシー、マリランダ及ペンシルバニア等に於ては専ら無煙炭銑鐵を製造し、一噸の銑鐵實費二十弗を要し、ウエスト、ペンシルバニア其他各州に於ては専ら木炭銑を製造し、其實費ウエスト、ペンシルバニアに於て二十六弗を要せり、而して英國の銑鐵は、フライラデルフィアに於て關稅共二十二弗にて引渡されたり、是米國製鐵業の堪ゆる所にあらざるを以て保護關稅政策の活動となれり。

一八五五	二二〇〇	三一〇八
一八五六	一五八〇	三一三三
一八五七	一八一〇	三九二
一八五八	一八六二	二一四五
一八五九	一六九五	二一一九
一八六〇	二一三六	二一三六

米國製造費

米國市價

最低 最高

米國輸入稅(稅一噸ニ付)

最低 最高

西曆 一八六一	一七六九	二〇、〇〇	二四、〇〇	銑鐵	六、〇〇	二〇、〇〇
一八六二	一七四四	二二、〇〇	三三、〇〇	條鐵	一一、〇〇	
一八六三	一六九一	三三、〇〇	四五、〇〇	レール	一二、〇〇	
一八六四	一七一	五四三、〇〇	八〇、〇〇	銑鐵	九、〇〇	三九、二〇
一八六五	二二二	四〇、〇〇	五五、〇〇	條鐵	二二、四〇	
一八六六	三三八二	四二、〇〇	五五、〇〇	レール	一三、四四	
一八六七	二九二八	三八、〇〇	四九、〇〇	鋼鐵レール	鐵價四五%	

西曆	一八六八	一八六九	一八七〇	一八七一	一八七二	一八七三	一八七四	一八七五	一八七六	一八七七	一八七八	一八七九
西曆	一八六八	一八六九	一八七〇	一八七一	一八七二	一八七三	一八七四	一八七五	一八七六	一八七七	一八七八	一八七九
米國製造原價	二九二八	二七六一	二八一七	三二一四	三二一三	三二一一	三四〇三	三三〇四	二七四八	二二六九	一七九五	一六五二
市價	三五〇〇	三四〇〇	三一〇〇	三二一四	三二一三	三二一一	三四〇三	三三〇四	二七四八	二二六九	一七九五	一六五二
利益	四六〇〇	四五〇〇	三七〇〇	三二一四	三二一三	三二一一	三四〇三	三三〇四	二七四八	二二六九	一七九五	一六五二

西曆	一八九〇	一八九一	一八九二	一八九三	一八九四	一八九五	一八九六
西曆	一八九〇	一八九一	一八九二	一八九三	一八九四	一八九五	一八九六
米國製造原價	一六、〇二	一三、一九	一三、七三	一一、七七	八、九四	九、八三	一一、三三
市價	一七、一六	一五、六五	一四、三七	一一、五四	一一、一四	一〇、三九	一一、二八
利益	二四、一四	一七、〇五	一六、一七	一四、三二	一三、五八	一七、八一	一一、三六
利益	八、一二	三、八六	二、四四	二、五五	四、六四	七、九八	一、四四

千八百六十一年以來の改正に依りて製鐵事業の著明なる利益を見る

市價著しく低下するに至りたるも製鐵事業の進歩と共に廉價製造の可能なるに依り尙同事業の相當の利益を擧ぐるを見る。

(備考) 括弧を附するものは減を示す

米 國

鐵輸出入變化表 (鐵及鐵製品單位百萬弗)

西曆	米 國		米 國	
	輸入	輸出	輸入	輸出
一八九七	九、七〇	九、七〇	一一、六二	(〇六)
一八九八	一〇、〇六	一〇、四六	一〇、九九	四〇
一八九九	一〇、六一	一一、三七	二五、八一	七六
一九〇〇	一五、八六	一三、八二	二五、八一	(二、〇四)
一八九七	一八八〇	一八八〇	一八八〇	一八八〇
一八九八	一八七五	一八七五	一八七五	一八七五
一八九九	一八八〇	一八八〇	一八八〇	一八八〇
一九〇〇	一八八五	一八八五	一八八五	一八八五
一八九七	二七、三	一七、九	一八九五	二五、〇
一八九八	五七、八	一四、一	一八九四	二一、三
一八九九	八〇、四	一五、一	一八九六	二五、三
一九〇〇	三一、一	一六、六	一八九七	一六、一
一八九七	四四、五	二七、〇	一八九八	一二、六
一八九八	五三、五	三二、一	一八九九	一二、一
一八九九	二八、九	三二、六	一九〇〇	二〇、五
一九〇〇	三四、九	三四、八		

鐵輸入國は遂に鐵輸出國となれり。

米 國

銑鐵輸入及輸出

西曆	輸入	輸出	西曆	輸入	輸出
一八六一	七四、〇二六	〇	一八七〇	一五三、二八二	〇
一八六二	二二、二四六	〇	一八七一	二二、七四〇	二、一一〇
一八六三	三一、〇〇七	〇	一八七二	二六八、五〇〇	一、三四〇
一八六四	一〇二、二二三	〇	一八七三	一四〇、三三〇	九、一六〇
一八六五	五〇、六五二	〇	一八七四	五三、四九〇	一四、五五〇
一八六六	一〇二、三九二	〇	一八七五	六〇、二八〇	七、九二〇
一八六七	一一二、〇四二	〇	一八七九	三四〇、六七二	一、二八一
一八六八	一一二、一三三	〇	一九〇〇	五四、〇〇〇	二八七、〇〇〇
一八六九	一三六、九七三	〇			

銑鐵輸入國は漸次銑鐵輸出國となれり

獨逸

西曆千八百三十年代迄は、獨逸の製鐵事業は只専ら先進國なる英國を師とし、之か模倣に習練に是勉むるの時にして國民も亦英國の鐵英國の機械にあらずんば安心して使用し得すと思爲し、時にハ「コートの如き熱心家ありて、或は自ら英國に學ひ或は英國の職工を聘用して、製鐵業及機械製造業の自國經營に盡力し、且其必要を大聲疾呼したることあれとも、多くは冷笑を以て迎へられ時に又「フリードリツヒ、クルツプの如きありて、將來のクルツプ大工場たるへき始源を爲したりと雖も、當時只僅かに興行三十間に過ぎさる一工場内に「鉗場六個の熔解爐を有せしのみ、資本家の補助するなく、彼の親戚友人さへ之を顧みず、唯其製品は英國に優れり」と云へる當時の獨逸製鐵業者に取りて最大

名譽たる鑑評を獨逸工業協會より許されたるのみ、曾て露國へ移住を思ひ立ちたる迄、困苦缺乏の情態に陥り、遂に十四歳の幼兒を遺して、其秘術の繼承者としエツセン市外の職工小屋に悶死せるか如き有様なりしを以て、此時代に於て普魯西を始め獨逸各邦か、自由貿易主義を取りたるは、亦已むを得ざりしことならん。

次て千八百三十三年獨逸各邦間の議漸く纏まり、所謂獨逸關稅同盟の成立を見たり、此同盟は、各邦間の境界通過に關する諸稅其他凡ての障害を除去し商業の發達を誘致するを目的としたるものにして、他日獨逸帝國の基礎たるべき、有功なる準備事業たるの觀ありし、而も此交通障害一掃の主義を擴張し、外國に向ても亦之を實行せんとするの傾向ありしは、當時の獨逸一般の製鐵事業に對し、依然として其發達を妨げたり、蓋し當時同國の製鐵事業の殆んど、九分通りは尙洗鐵製造に木炭を用ゆる時代にして、到底先進の英國白國と競争すること能はず、然るに關稅同盟の對外輸入稅率に依れば、鍊鐵は一噸に付、六十麻克の輸入稅を徵收すれども、銑鐵は原料品と見做され全然無稅たりしなり、當時隣國の製鐵事業は何れも強力なる關稅の保護を受けたるものにして、就中佛國に於て千八百三十五年に銑鐵、一噸の輸入稅を五十六麻克乃至五十四麻克、鍊鐵一噸の輸入稅を百五十麻克乃至三百麻克に遞減したる時の如きは、人以て自由貿易に缺きたる軟政なりとなしたる程なり、白國の如きは既に完全なる輸入稅保護あるの外に、尙政府より特別の保護あり、即ち鐵道を初め凡ての政府工事用の鐵材は、一に、自國産を使用すること、定めありしを以て、自國の製鐵事業は大に隆興しつゝありし、然るに獨逸に於ては關稅の保護なきのみならず、各邦政府も亦自國産の鐵を使用せず、鐵道材料の如きは全く英國製及白國製に限られたり、官立諸工場の如きも銑鐵は凡て、スコットランド製に限るとして、自國製を顧みず、國民一般も亦前掲の如く自國製を輕視する有様なりしかために、英國白國の銑鐵鐵材の輸入滔々として、獨逸國內に氾濫するに至れり、往々にして英國白國の例に倣ひ、大規模の骸炭銑

高爐の設立を計畫するものもあるも時期已に後れ、最早、廉價なる外品に競争すること能はず、空しく其計畫を中絶して拱手するのみ、南西獨逸の石炭の如きは佛國に輸入せられて、佛國の製鐵事業に用ひらるゝも、獨逸自ら之を使用するを得ざりし、之に加ふるに、當時の獨逸は資本に缺乏せり、而も政府は資本の合同、會社の設立に對して何等の保護をなさず、人民も亦工業的會社組織を以て、富籤と同視し之を組織するに當ては、當初より已に損失を覺悟するの有様にして、間々資本を有するものは、フランクホルトの取引所に於て、信用覺束なき高利の外國公債などを喜んで購入するのみ、加ふるに獨逸人の性質として理論にのみ傾むく癖あり、之か爲め自由貿易説の如きも、一時開國の妙案として採用せられたることなれとも、自國工業發達の程度未だ之を許さず、必要は遂に自覺を生むに至れり、而して其必要は、先づ鐵道に初まれり。

鐵道に就ては、獨逸は歐洲大陸に於て割合に早く英國に倣ひ、之を應用せるものにして、之れか建設の鐵材に就ては、前述の如く全部外國より輸入したり、之かため、年々外國に支拂ふ金額は、容易の額にあらず、而かも之に對抗す可き輸出品なきを以て、當時の獨逸の經濟としては、誠に重大の負擔なりしなり、例之千八百五十年に於ては、獨逸は已に五千八百六十キロメートルの鐵道を有し、佛國の二千九百九十六キロメートルに比し、二倍の延長を有するに至り、一キロメートルの鐵道建設に要する、諸鐵材(車輛共)四百四十五噸なる故に、一噸の鐵材平均二百麻克としても、已に三億二千五百五十四萬麻克を支出したるなり、之かため千八百四十年代に於て、獨逸は頗る財政窮乏に陥りたり、已むを得ず漸次一小部分宛の材料を内地製鐵所に注文することとなり、内地製鐵所に於ても亦懸命に、外國との競争に務めラインランド州、又はウエストフアリア州に於て、稍々大規模の製造所を建設するものあり、一部輸入銑鐵を使用して、レール其他の鐵道材料を製造するに至れり。

此の如く一方既に自覺の曙光を催したるに當り、他方に於て外國の壓迫益々甚しく、千八百三十九

年以來英白兩國の經濟界に出現したる不況は、兩國に於ける鐵價の暴落を來し、其結果として兩國の鐵材は保護關稅の乏しき獨逸國に向つて滔々として侵入したり、當時英國の大藏大臣か下院に於て、「我が一週間の工業工程中二日間は獨逸との商買なり」と報告せし程なりき、之に於て獨逸は獨逸製鐵事業か、他國に對して、保護を受けざる限り衰滅の外なきを覺り千八百四十四年九月一日を以て、先づ溫和なる輸入税を課することとなりたり、即銑鐵一噸に付二十麻克、條鐵及レールに付ては從前の小税を高めて、一噸に付四十五麻克とせり、加工したる鐵材に付ては既に千八百三十七年に於て、輸入税を定めあり、即ち加工したる條銑及レールは五十七麻克、平鐵及鍛鐵百八十八麻克六なりし、此間英白兩國の商人は鍛鐵を粗塊の形狀となし、銑鐵と稱して無稅通關を爲し、數年間に亘りたることあり。

此の如く鐵道の建設と、關稅の改正と相待て、漸く獨逸製鐵事業の興隆を見んとするに至りたれども、未だ容易に安心なり難きは、英國の壓迫なりし、獨逸に於ける鐵道勃興か獨逸製鐵事業を助成せんとするに反し、當時英國に於ける鐵道建設の發達は、製鐵所の大々の勃興を促し、遂に製造過剩を來し千八百三十九年の不況は、之れかために起りたり、スコットランド銑鐵は、千八百三十九年に於て一噸百麻克の相場となり、夫れより逐年低落し、千八百四十三年には、三十九麻克八となれり、然るに獨逸にては、最も安價に製造し得るヨーバシレシア州に於ても、木炭銑一噸實費百麻克を要し、骸炭銑に七十八麻克を要するものにして、輸入税二十麻克の保護ありと雖も、到底英國製鐵を防遏す可からざる感ありしも、幸に千八百四十四年以來、英白兩國の市價も漸時昂騰したるかため茲に獨逸製鐵事業は、豫期の通り著しく發展するに至れり、而して多年獨逸を苦めたる、外國鐵輸入は千八百四十三年の年額、二十一萬二千四百八十三噸を一紀元として、關稅改正の千八百四十四年以來漸次減少し、遂に後年鐵輸入國は、變して輸出國となり、製鐵國としては遙かに、英國を凌駕し、殆んど二倍の製産額を擧ぐるに至れるものなるか、其基礎は實に此時代に於て造られたるなり、然れども先見の明なき自由貿易論は全

滅に至らず、殊に前述の如く千八百四十年頃の情況を見て、到底英國の廉價製鐵に對抗しかたきを恐るゝや、再ひ擡頭し來りたるかため、保護か自由かの政策問題は、千八百四十年より五十年に至り一層盛なる國家論争となれり。

其後千八百五十年代に至り、獨逸關稅同盟か、政治上の關係より動搖を來したれとも、全體を通して保護稅の主義を改めず、而して製鐵技術に於ても、著しく進歩し來り、殊に骸炭銑鐵業も漸次大規模の勃興を見るに至りたるを以て、獨逸製鐵業は着々として隆盛に向ひたり、而して千八百五十五年には銑鐵一噸の輸入稅、二十麻克條鐵九十麻克なりし。

千八百六十二年四月二日、獨佛通商條約の結果として獨逸國關稅同盟は從前の保護政策を去り、少く自由貿易に近接することゝなれり、夫は英佛兩國か聯合して強要したると、英佛通商條約、佛伊白通商條約の結果止むことを得ず、茲に至りたるものなり。

即ち千八百六十五年七月一日より、輸入稅を引下げ銑鐵一噸に付十麻克條鐵二十五麻克となし、千八百七十年十月一日更に引下けて、銑鐵五麻克條鐵十七麻克となしたり。

此の如く關稅を引下げたるも、獨逸製鐵業は既に昔日の吳蒙にあらず、其熔鑛爐の半數は已に骸炭を用ひて大規模の製鐵に移り、尙ベスマー製鋼の應用に依りて製鐵力大に激増し、千八百七十年は銑鐵年産額百三十九萬噸に達し、産額に於て佛國を凌駕し、英米の次位となれる時代なりしを以て此の關稅引下げのため、敢て危險を感せざりしか如し。

越て千八百七十年及七十一年の、普佛戰爭に於ける名譽ある勝利の結果は、茲に、凡ての障害を意とすに足らざる迄、獨逸銑鐵事業に對して、重大なる勢援を與へたり、即鐵鑛の產地たる、アルサス、ローレンの獲得、多額の償金、獨逸帝國の統一、ウイルヘルム一世、及ビスマークの熱心なる援助、戰爭中より引繼ぎ國內鐵需用の激増、殊に軍備及鐵道の大擴張、一般財界の盛況等に依り、非常の振興を來した

り、然るに此偉常なる好景氣の反動は、千八百七十三年の下半期に初まり、千八百七十二年来國に於て製造超過の惹起せる鐵界の不振と相俟て、世界一般的の不況となり、千八百七十六年獨逸製鐵事業は遂に最大の不況に達せり。

此不況を來したる原因の一とすへきは、所謂獨逸流の理想論即自由貿易說の又もや擡頭したることと是なり、戰勝後に於ける製鐵業の外觀的活況は、帝國議會をして鐵輸入税を全廢するの議決をなさしめたり、然るに獨逸の製鐵事業は當時漸く時世の進歩に到達したるのみにして、國情の大變動と共に、尙幾多の大問題を有し、基礎未だ確立せるものにあらざるか故に、此の如き政策の新發現によりて、千八百七十五年五克麻迄に引下げられたる銑鐵の輸入税か、千八百七十三年十月一日より全廢さるゝこととなり、英白の銑鐵か何等の障害なく、滔々として輸入せらるゝに及んで、獨逸の製鐵業者は原價にさへ達せざる價格を以て、其製品を賣却するの外なきに至れり、更に甚しきは、千八百七十七年より銑鐵以外の輸入税をも全廢するの決議にして、之かため製鐵事業をして全く絶望の地位に陥らしめ、極めて慘憺たる情況を呈するに至れり、此結果は外國殊に英國の利する所となりたるのみ、而も製鐵業者の哀訴歎願に對し、帝國議會は常に斷然として之を拒絶せしか、終に皇帝の配慮と宰相ビスマークの盡力に依て、僅に其全滅より救出せらるゝこととなり、ビスマークは初め此誤れる理想論者の一人なりしも、彼の明敏なる頭腦は、能く鐵輸入税全廢の惡影響、及製鐵事業の苦境を諒察し、千八百七十八年獨逸製鐵事業現狀調査委員會を組織し、其調査の結果として千八百七十九年七月二十四日より、銑鐵一噸に付十麻克其他に二十五麻克の輸入税を再興したり。

尙政府に於ても、陸海軍及鐵道の用材は、凡て内地の製品を用ひ、以て自國の製鐵事業を保護するは、國家に對する義務なるを認識し、従前の如く外國品を優待するの弊を一掃するに至れり、一方製鐵業者も亦孳々として製品の改良進歩を計り、外國に優るとも劣らざるものを製出して、其恩に答ひ、相俟

て茲に獨逸製鐵事業の繁榮を來すに至れり。

千八百七十六年米國の第一回世界博覽會に於て、獨逸審査員ル・ロー教授か、獨逸出品に對して「安價にして而して劣惡」と稱する評證を與へたり、獨逸人は此評證を以て過酷なりとし、是審査員か米國に於ける同業者の嫉妬心を代表する新聞批評に、動かされたるものなるへしとすれとも、當時獨逸品の粗惡は、一般の世評にして、現に英國工業家は、自國市場に侵入せる、廉價なる、獨逸品排斥の目的を以て、議會及政府を動かし、一種の法律を可決したり、之に依るときは凡ての輸入品には必ず製造元の國名を明記すへきこととなり、是の如くして自國及其殖民地より廉價にして粗惡なる獨逸品を驅逐せん考なりしなり、即ち所謂 *Made in Germany* の標記は粗惡品の附號なりとして、各人に知了せしめんとしたるなり、然るに一方獨逸に於ては政府の寛大なる政策に感激しル・ローの激勵に憤起したる製鐵事業、其他一般の工業も亦孳々として製品の改良を計りたるを以て、數年の後には *Made in Germany* の標記は、反て、良品を意味するものとして、英國市場を初め一般に歡迎せられ、製鐵品の外國に輸出せらるゝもの年と共に増加し、自國の消費も亦著しく増大せりと雖も、製産は漸く需要を超過して堂々たる鐵輸出國となり、即ち千八百七十一年には、人頭割の鐵消費量四十七疋五なりしもの、千八百九十五年に、百二十八疋四となり、而して鐵產出量は千八百七十一年には、三十一疋七にして需用に足らざりしも、千八百九十九年には百五十疋八となりて消費量を超過し、之を以て外國輸出をなし、遂に英國を凌駕して世界第二の製鐵國となるに至れり、其此に至れる所以のものは、政府か幾多の經驗により、關稅政策其宜しきを得たるを主とし、千八百七十九年トーマス製鋼法の大發明ありて、ミネツテ大鑛床の開發を可能ならしめ、之に伴ふて、一般製鐵技術も亦幾多の改良進歩を來し、更に一面に於て學校協會試驗所等の設立を獎勵して、鐵冶金學の研究應用を盛にし、他面に於てカルテルの組織、鐵道の普及、海外販路の擴張、等に非常の努力をなしたる結果に外ならず。

英國

關稅に關しては、英國は、三段の手續を取れるか如き觀あり、第一段に於ては外國の鐵類に對して輸入を禁止し、第二段に於て重稅を課し、第三段としては自國の製鐵事業か遙かに諸外國を凌駕し、何等の輕減を誘致し、自國製品の販路を擴張せんとせしこと是なり。

最初の關稅はナポレオン一世の關稅政策に倣ひたるもの、如く、漸次辛烈を極めたり、其煉鐵類の輸入稅は、一噸毎に實に左の如くなりし。

西曆 一七九五年・ 二、一六〇、二一志片

一八〇〇年乃至一八〇二年 三、一五、〇五、

一八〇三年 四、〇四、〇四、二分一

一八〇五年 四、一七、〇一、

一八〇五年 五、〇一、〇〇、

一八〇六年乃至一八〇八年 五、〇七、〇五、四分三

一八〇九年乃至一八一二年 五、〇九、一〇、

一八一三年乃至一八一八年 六、〇九、一〇、

一八一九年以後 六、一〇、〇〇、

當時自國製品の原價一〇磅一〇志一〇片 $\frac{1}{2}$ に過ぎざりしに對し前掲の輸入稅は殆ど六割に達するものあり當時已に世界に冠たる先進製鐵國たりし英國か其後進國に對して、尙此の如き警戒を加へたるは、殆ど絶對的に内地事業の安全を計りたるものと云ふ可し。

而して銑鐵は千八百二十三年迄は全然外國の輸入を禁止せられあり、當時内地の價格は千八百二

十二年倫敦の相場銑鐵一噸に付六磅乃至七磅、鍊鐵製棒鐵はブリストル相場七磅十志なりし、銑鐵は千八百二十三年以來其輸入禁止を解き其代り輸入税として一噸に付十七志六片を課せり。

然るに内地工業殊に機械製造業の益發達するに従ひ、鐵類の市價頓に昂騰し、バーミンガム又はシエツフヒールド等の機械製造業者等か、外國の機械注文を引受くるに不便なりとするに及んで、大藏大臣ハスキツソンの提案として關稅引下案を議會に諮り、其同意を得て、千八百二十六年一月五日より左記の如き大遞減を行ひたり、是他年英國に於ける關稅全廢、所謂自由貿易策の第一歩にして、當時ハスキツソンか其提案の説明に用ひたる論旨、即、廉價の原料を採用して廉價の製品を造り、外國市場の競争に便ならしむること、自ら關門を開きて外國品を歓迎すると同時に他國の關門を開かしめて、自國製品の侵入に便ならしむること、之應答せざる外國に對しては當方も亦關門の恩典を與へず、其國民か自家の利益より、進んで英國の例に倣ふは當然なるに依り、英國は此政策を守りて彼等の來向を待つこと等の議論は實に自由貿易論者か金言玉條とする所のものなりし。

此時に於ける關稅引下は、頗る斷然たる處置なりしこと左記の如し、而して之を以て英國關稅政策の大轉環期となす。

千八百二十六年以前

千八百二十六年以後

煉	同	鑄	古	銑	鐵
鐵	外國製	物 (從價)	鐵	鐵	鑛
但英領殖民地製					
一、〇二、二一 <small>志片</small>	六、一〇、〇、	二〇、%	〇、一七、六、	〇、一七、六、	〇、一七、六、
〇、〇二、二六 <small>志片</small>	〇、一〇、〇、	一〇、%	〇、一〇、〇、	〇、一〇、〇、	〇、一〇、〇、

鍛鋼及壓延製品

二〇、〇〇〇、

五、〇〇〇、

此の如く關稅の遞減をなせしと雖も英國か當時他國の競争を恐れさりし理由は下表を以て之を知ることを得へし。

千八百二十五年に於ける各國の條鐵市價比較表

(二噸の市價)

佛 國

二六、一〇〇、
志片

白耳義及獨逸

一六、一四〇、

瑞 典

(ストックホルム)

一三、一三〇、

露 國

(ペーテルスブルグ)

一〇、〇〇〇、

英 國

(カルヂフ)

即ち英國か當時他國に比し如何に廉價に製鐵せしかを見るに足る。

千八百五十年ニ於ける世界各國の製鐵高

製 鐵 高

人頭割

二二、五〇〇、〇〇噸

一四四封度

五三三、五〇〇

六〇

二四八、四五〇

一〇

二二三、六〇〇

五〇

一九九、七〇〇

一五

二〇〇、〇〇〇

七〇

瑞 典、諾 威

一八七、八〇〇

三〇

西 國

三七、五〇〇

五

伊 三四、五〇〇
 瑞 西 一〇、〇〇〇
 土 三、五〇〇
 丁 七五〇
 葡 三〇〇
 米國合衆國 五六三、〇〇〇
 合計 四、四九二、六〇〇

ハスキッソンの自由關稅遞減論中にある「各國をして亦之に倣はしむへし」とのことは全く先見を誤りたり、即ち千八百五十年に於ける各國の輸入稅は依然として嚴存し其比較下の如し。

千八百五十年各國輸入稅

國	銑鐵	煉鐵(條)	板鐵	鋼
英國	一、〇〇〇、〇〇〇 <small>磁志片</small>	四、一〇〇、〇〇〇 <small>磁志片</small>	七、一〇〇、〇〇〇 <small>磁志片</small>	一、二〇〇、〇〇〇 <small>磁志片</small>
獨逸	三、〇〇〇、〇〇〇	七、一六〇、〇〇〇	一六、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇
佛國	三、〇〇〇、〇〇〇	八、一〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	禁止
奧國	四、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇六〇、〇〇〇	禁止
米國	三〇%	七、一〇〇、〇〇〇	七、一三、一〇〇	禁止
西班牙	一、一八〇、〇〇〇 二、〇四〇、〇〇九	一一、〇〇〇、〇〇〇	三、〇五〇、〇〇〇 四、一五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇、〇〇〇

米、獨、英、三國の製鐵事業か、各其近世の大を成すに至る迄、如何に多く關稅政策の保護を必要とし、又之を享受したるかは、前文記載の如し、而も近世に至りては、最早保護の必要を感せざるか故に、只僅に

通關手数料とも云ふべき、最高一割内外の課税に止め、尙自國工業の爲め、原料的の性質を有する品種に對しては、無税通關を許して歡迎の意を表せり、殊に先進國たる英國の如きに至ては、此意味に於て早くより既に、全部の外國品に對して無税を標榜せしものなり、第二流以下の製鐵國たる佛國伊國の如きは、原料の關係上未だ此の如き場合に至らず、今日に於ても尙相當の保護政策を取りつゝあるは元より當然の處置と云ふ可し。

世界列強の形勢此如き場合に於て、我日本か其製鐵事業に向て如何なる保護政策を執れるや、曩きに實施せられたる製鐵獎勵法の如きは、慥かに有效なる保護たるに相違なしと雖も、幼稚なる我國製鐵事業の死活は、目下の處唯先進國の壓迫に對する防禦如何にあり、是保護關稅の必要なる所以なれとも、我國には、古來唯手数料的關稅あるのみにして、保護關稅あるを見ず、是我國に於て斯業の發達せざりし一大原因たるへし。

今各列強に於ける、現行の鐵輸入税を比較すれば左の如し。

各國主要鐵材輸入税比較表

鐵材種類	米		獨		英		佛		伊		日	
	稅率	價目	稅率	價目	稅率	價目	稅率	價目	稅率	價目	稅率	價目
銑鐵	無	五、〇〇	無	五、〇〇	無	八、七八	無	三、九〇	無	二、三六	無	一、二六
鋼塊	一五%	七、五〇	無	二、七五	無	二、九二	無	一、〇七	無	八、三三	無	八、三三
鋼片	一五%	七、五〇	無	二、九二	無	二、九二	無	一、〇七	無	八、三三	無	八、三三
鋼條	五%	一、二五〇	無	三、八〇	無	三、八〇	無	三、三三	無	一、〇〇	無	一、〇〇
鋼形	一〇%	三、一〇〇	無	三、八〇	無	三、八〇	無	三、三三	無	一、〇〇	無	一、〇〇
鋼板	一二%	三、五〇〇	無	三、八〇	無	三、八〇	無	三、三三	無	一、〇〇	無	一、〇〇

予は理論に依らず唯各國の歴史に徴して左の事實を知れり。

- 一、輸入税の増加は市價の昂騰を來す。
- 二、市價の昂騰は製産力の増加を促す。
- 三、製産力の増加は市價の低落となる。
- 四、市價の低落は輸入税を要せざるに至る。

(丁)

我製鐵事業は關稅の保護を必要とし又之を 受くへき資格ある理由

今泉嘉一郎

數十年來朝野の熱心なる努力と、數年來時局の痛切なる要求とに依り、我國の製鐵事業は異常なる進歩をなしたり、蓋し過去二十年間に於て成したる、我國斯業の進歩は、歐米先進國か、曾て數世紀を費したるものにして、我か過去四年間の進歩は、歐米に於て數十年を要したるものなり、然れども製鐵事業は、多數の製品を抱括し、而して之か製品の製造事業經營には、各特種の事情を有するを以て、各種の製品か、同一歩調の發達を遂ぐるに至らざりしは亦止むを得ざる所なり、即ち或る種類の製品は、既に自給の域に達し、又は近き將來に於て之に達せんとし、他のものは尙一段の努力を要すと雖も、之か獎勵如何に、依ては、是亦遠からず自給し得へきものたるに至れり、然るに今や急激なる時局の變化に依り、從來全然我國と事情を異にしたる、外國市場の過剰品は、俄然として恐るへき破壊的暴落價格を以て侵入するに至れり、戦局の終結と共に變動の來るへきは、何人も豫期せる所にして、各自の觀察を以て何れも相當の準備に努力したりと雖も、此の如き急激の變動に對しては、殆ど準備を完うするの違なく、今や我製鐵事業は、何れの部分に於ても此の變動に對し、全く經營の目途立たず、唯手を拱して其